

道



Aブロック全作品と講評

www.columnland.net

君がいない帰り道

一人歩く

もう君はいない

帰り道

帰る時はいつも一人。

寄り道はしない。何か悪いことが起きそうで怖いから。

そうやって今まで決まった道を一人で帰っていた。

つまらない。けど…。

みんなはどこ行くのかな。

明日はあの道を通して帰ってみよう。

そう思いながら、またいつも通りの道を帰る。

道

もう長い間あちこちを旅している。

私には両親がいない。そう、捨てられたのだ。だからそんな過去の記憶も、周りの人間も捨てて、世界中を旅しようと決めた。そして二十を超えた今もいろんな街を訪ね歩いて生活してる。そんな自分に道を尋ねる者がいた。少し白髪交じりで、初老の優しいような男だ。「若い。この街の行き方を教えてくれないか。」彼は私に道を聞いた後、ありがとうと一言つぶやいた。しかし私を見つめたその瞳は暗闇で閉ざされていた。私は自分の後ろを通り過ぎていく彼が気になって、ちらつと彼の背中をのぞいた。そんな彼はなんだかっこよく見えた。

*

いつからだろうか。道を踏み外したのは。

昔は違った。私は両親がいないという現実がありながらも、世界を知ろうと様々な地を飛び回ったものだ。そして私はある街で知り合った一人の女性と男の子をもつけた。毎日三人で笑いあって、手を取り合って過ごした。私はそんな毎日が生き甲斐だった。

だが世の中は、そんな平穏な生活を許してはくれなかった。苦しい毎日に妻は病に倒れ、大切な息子は連れて行かれた。そしてそのときから私は自分の心を堅い殻に閉じこめた。

そうか、あの時からか……。辛い記憶を振り返って涙がこぼれる。あれから私は毎日息子を捜した。必死に探した。だが見つからなかった。だから今では諦めかけている。もう次の街で最後になろう。

*

私は最後の街へ行くため、ある若い旅人に道を尋ねた。真っ青な彼の瞳に昔の自分の姿を重ねる。「若い。この街の行き方を知らないか。」そうして礼を言った後彼に背を向け、教えてもらった道をとぼとぼと歩いていく。

そしてふと、振り返って遠ざかる彼の背中を見つめる。

「強い背中じゃないか。」そうつぶやいた。

そうだ。私も負けてはいられない。自分の道は自分でつくる。
あの頃だってそうだったじゃないか！

そう決心する旅人の瞳は、きつと青く輝いていたことだろう。

自分だけの道

例えば雪道

みんなが通る道を歩いても、自分の足跡は残らない

でも、誰も歩いたことのない道を歩けば、自分の足跡は残る

みんなが歩きそうにない道を歩けば、自分の足跡は残る

人生、誰かの真似じゃ、つまらない

自分だけの道を歩いて、足跡を残す

それが個性

道

今、自分が立っているこの道をまっすぐ行けば、東京タワーに辿り着く。分岐点さえなければ、ここにいるみんながどこに向かっているのか、もしくはどこから来たのか、わかるのに。

人とぶつからないようにしながら、この混雑した道を歩くのは大変だ。でも、片手に地図さえ持てば、必ず自分の目指しているところに行ける。

道の両脇にはたくさんの店がある。でも、その中で自分の興味のある店は少ない。それに、一度通り過ぎて、また戻ってこられる。

ちょっと道を外れても、またUターンできる。何度でもやり直してできる。安心して歩いて行ける。

今、自分のいるこの道をまっすぐ行っても、どこに辿り着くか、わからない。たとえば分岐点がなくても、みんながどこに向かっているのか、もしくはどこから来たのかは、わからない。

人とぶつからないようにしながら、この競い合う道を歩くのは大変だ。この世界には地図なんて便利なものはない。自分の目指しているところに行ける保証はないのだ。

道の両脇にはたくさん誘惑がある。興味をそえられるものばかりだ。一度通り過ぎてしまったら、きつともう二度と出会えないだろう。

ちょっと道を外れただけで、全然違うところに行ってしまう。一度きりの人生とは、まさにこのことだ。恐る恐る、歩いてみる。

道

正しい道つてあるのかな

どんなに悩んでも進めるのは一本だけ

でもさ

もがき苦しんで

満足した選択が出来たなら

それが正しいと信じて良いよね

道ひとまぢり

自分のおうちを出て

一度立ち止まる

とりあえず北を向いて

しばらく歩くと

郵便局

お手紙を出す

郵便局を出て

。二ニから東へ300mのポスターを見て

行つてみると

美容院

のびた髪を切る

美容院を出て

おじいちゃんに会う

。商店街は南の方だ。と言われ

スキップで進み

八百屋

果物を買う

八百屋を出て

日が暮れそう。悲しくなる

太陽に向かって走つていくと

自分のおうち

一度立ち止まる

時間が2時間たった

ほくは2時間前と同じと二ニに立って

道

てくてくてく 歩みます
きらきら光る 青空の下
てくてくてく みんなと一緒に
草むらかきわけ 進みます

てくてくてく 歩みます
うつすらすじ雲 日は陰り
てくてくてく 疲れを隠して
一心不乱に 続きます

てくてくてく 歩みます
そろそろみんな 大人になります
そしてそして 迷いを感じ
新たな道を 求めます

てくてくてく 歩みます
ガードレールを 乗り越えて
てくてくてく 別れを告げて
みずから道を 開きます

てくてくてく 穏やかに
視野を広げて 先を見据えて
てくてくてく 道なき道を
一人孤独に されど自由に
てくてくてく 歩みます

ここから先は 僕は知らない

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	無題（君がいない帰り道）	1 pt	8 位	2 sp
		おめでとう表紙作品。 まさに「あいあむ表紙！」と主張している明朝体のさっくりフレーズ。 読み手次第でいろんな情景に浸れます。 特別賞：ドヤー顔が正に人生（作者のドヤー顔が目につかぶ）奥山賞（奥山君がかなり推した。青春のあまらずっぱさがいい） イチオシフレーズ：「もう君はいない」		
A02	帰り道	13 pt	4 位	0 sp
		帰り道つながり？ 大学生になったし、ちょっと冒険したい、でもまだ踏み出せない。そんなためらい気分が、ストレートに伝わってきて、とても共感しやすい流れです。 いったいどんな「あの道」なのでしょう。 イチオシフレーズ：「けど…」 「つまらない。けど…」		
A03	道（もう長い間……）	7 pt	5 位	4 sp
		初回にもかかわらず重厚ストーリーを投げ込んでいただきました。 運命のすれ違い。父から息子へと受け継がれてゆくもの。息子が父に返してゆくもの。ていねいに演出して、しみじみ余韻ゆたかです。 その気合いが評価されての最多特別賞でした、おめでとう!! 特別賞：がんばった賞（長い）がんばったで賞（小説風の話をつまみ食いしたから）バロンドール賞（一人称、現実と仮想、アスタリスク）長かったで賞（この時期に長い文章を書いたのがすごいから）		
A04	自分だけの道	26 pt	1 位	2 sp
		たくましい決意表明。 あ、なるほどねと雪道のたとえに納得です。白いまぶしさも、今の始まり気分にあっています。 今週のイチオシフレーズ大賞とともに、しっかりとゴールド・メダル、射止めていただきました。おめでとう!!! 特別賞：人生が見つかりそうで賞（自分の心の中を反映している気が。） 個性的で賞（読みやすい。個性を上手く例えている。共感できる） イチオシフレーズ：「それが個性」「人生、誰かの真似じゃつまらない」×2 「誰かの真似じゃつまらない」×2		
		4 pt	7 位	1 sp
		技巧派参上！ シンメトリックに対称的な世界を構築していただきま		

A05	道（今、自分が立っている）	した。 後半の困難編のほうが、なんだかより実感こもって伝わりますね。 こういうの、タイトルをセンターに置くなど、もっとレイアウト工夫すると、ぐっと映えます。おためしあれ。 特別賞：努力賞（左右の対応が上手い。言葉がよく吟味されている）
A06	道（正しい道ってあるのかな）	18 pt 2 位 2 sp そうだよな。 親しい友達が隣の席でふっとつぶやいたような。聴き手が背中を押したいような、親しみやすい語りかけが、みんなの心に届いてシルバー・メダルでした、おめでとう!! 特別賞：A Cで賞（道德の授業のごとく語りかけてくる!）信じていいで賞（呼応） イチオシフレーズ：「でもさ」「信じて良いよね（エーシー♪）」
A07	道ひとまわり	16 pt 3 位 2 sp かわいいフォントで絵本テイスト。 「ぼく」にしっかり浸りきって進みました。 2時間経ったら、同じ場所。この「ぼく」は、どんな科学者さんor哲学者さんになるのでしょうか。 作者さんトークの完成度もすばらしかったです。おめでとう、ブロンズ・メダル! 特別賞：ふわふわで賞（何気ない一時がとても深い。）これ手書きで賞（みつをつぼくて良い。フォントのセンス） イチオシフレーズ：「正しい道ってあるのかな」
A08	道（てくてくてく）	5 pt 6 位 2 sp 何だろう？虫かな動物かな人かな？ わからないまま、てくてくてく。 おひさまのした、ここちよいリズムの行進で今週の読み納めでした。 特別賞：てくてく賞（リズムが良い。）金子みすずで賞（それっぽいから） イチオシフレーズ：「てくてくてく」×2「ここから先は僕は知らない」「てくてくてく 道なき道を一人 孤独にされど自由に」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	前向き	18 pt 2 位 0 sp おー、うまいこと言った感が。 そうだよな、前か後ろかは自分で決める。その気合いだ! シルバー・メダルの支持をいただけたとともに、イチオシフレーズ総なめの快挙です。おめでとう!! イチオシフレーズ：「体を向けた方が前になる。」×9		
B02	みちくさ	9 pt 5 位 2 sp みちくさ、に行った狙いがユニークでした。 しかし、どんな味なんだろう。その描写もあると、よりおもしろかったか。		

		特別賞：みちくさはおいしいで賞（昔の経験を思い出させてくれて心がなごんだ） 敢闘賞（テーマに固執してない。柔軟）
B03	おっさん	13 pt4 位4 sp インフラのたいせつさ。道路工事に託して表現していただきました。 黒光りする道を残して去るなんてカッコいいなあ。こういうところまで視線の届く人でありたい。 特別賞：おっさん賞（おっさんだから）×2 功労賞（インパクト◎） 道理で賞（確かにあなたがたがいなければ、この世は平らになりません。言えてるから） イチオシフレーズ：「さあ、今日もいっちょ、頑張るか！」 「俺たちは平らな世の中を手にすることはできないんだ。」
B04	道（人が歩く車が走る）	2 pt8 位0 sp ひとりひとりに、その人だけの道。 しっかりと足元を見つめるような語りが好印象です。 前方は定かに見えないけれど、さあ歩いて行こう。
B05	道（いまでも道を歩いている）	6 pt6 位3 sp ヨコヨミ、入ります。「いつまでも一人」。初回だとなかなか気づいてもらえませんが。 フレーズが内容とシンクロしているのも自然でいいですね。 特別賞：きつとたどりつくで賞（ぜひたどりついてほしいからです） いつまでも一人で賞（頭文字をつなげると文章になる/縦にも横にもつながっている）×2
B06	方向音痴の言い分	21 pt1 位3 sp あーもう、そうやって迷いなくどんどん進んで行ってしまうから、迷うんですよ。ちっとは立ち止まってGPS確認しよう。 猪突猛進方向音痴くんの「らしさ」が、こんな短いフレーズから、ひしひしと伝わってきます。ナイス・アイディア。おめでとう、ゴールド・メダル!! しみじみだったりユニークだったりのガールズ・パワーを鼻差で押さえて首位獲得となりました。Bブロックはネタ好き、という伝統が今年も引き継がれるのか!? 特別賞：自信過剰で賞（詩本体とタイトルのギャップ） タイトルが秀逸で賞（タイトルが凝っていたので） おしくも入賞しなかったで賞（おちの面白さで点数を伸ばしたが、おしくも……） イチオシフレーズ：「方向音痴の言い分」
B07	無題（新たな世界の入り口に）	4 pt7 位2 sp 道＝未知ネタはメチャメチャ多かったのですが、これは基地＝既知と絡ませた工夫がすてきでした。 気負わないゆっくりさも好印象。 このくらいの長さだったら、しゃれたタイトル付けてあげると、さらに作品ぶりが上がります。 特別賞：テンポがいいで賞（韻を踏んでいてきれい） 掛詞で賞（すごく考えたのだなあと思ったから） イチオシフレーズ：「いつか自分の基地になる」
B08	道（道はいつまでもどこまでも続くって）	17 pt3 位1 sp みんなが、どこまでもどこまでも続く道をイメージしているときに、終わりがあって、うれしいことだね、と呟いてみる。 その発想のユニークさ軽やかさに乾杯！ な今週の読み納め、みごとブロンズ・メダルでした、おめでとう！

特別賞：字体が頑張っているで賞（この字体をどうやって出したのかが分からないから）
イチオシフレーズ：「てくてく…」×2